

C1C

CENTER SPEAKER SYSTEM



ATC(Loudspeaker Technology Limited)は1974年に現社長のピリー・ウッドマンによって創立、英国ロンドンから西方のグロースターシャ州ストラウド市アストンダウンの田舎にあります。ATCのスピーカー設計はスペックとしてのインパルスレスポンス、アキュラシー、透明度、ダイナミックスの高いレベルでの実現というファンダメンタルを重視、コストを惜しまないユニットデザイン、さらにアコースティック楽器やボーカルのナチュラルな再現のために、振動系には極力自然素材を採用するなど、創立以来一貫した取り組み姿勢は一流スタジオからの絶大な信頼を得ています。今日、ホームシアターオーディオにおいてもデジタル環境の整備化とともに高い解像度とダイナミックなオーディオ再生能力がますます要求されています。ATCは先に発売の家庭用ならびに小型クラスのスタジオモニターSCM7/SCM11/SCM19にマッチングするセンターチャンネルスピーカーシステムを新しくデザインいたしました。C1CはSCM7に、C3CはSCM11やSCM19との組み合わせに適しています。

C1CはSCM7のMid/LFドライバーを2ユニット搭載し、主にセリフやボーカルの帯域を受け持ちます、同帯域でのリアルさはATCならではの、他の追随を許しません。SCM7との組み合わせで最もコンパクト&リッチなサラウンドオーディオシステムを構成できます。

C1CのMid/LFドライバーユニットは、正確なモニタリングのリファレンス・システム用に開発された「ソフトドーム」テクノロジーを採用、ATC伝統の設計、この口径では世界でも類を見ない贅沢な内容です。強固なダイキャストフレーム、システム重量の半分を占める重量3.56kg、低音域125mm径のポリエステル織りコーン、それに移植された中音域45mm径のソフトドームでメカニカル2wayを構成しています。磁気回路はOFCフラットリボン・ワイヤーで高密度に巻かれた45mm径のショートボイスコイル、長く狭い磁気ギャップ、スピーカー口径と同径の強力マグネットにより、低歪率、ハイパワーハンドリング、長期の高信頼性を得ています。

高域のソフトドーム・トゥイーターは、C1C、C3C共通の25mm口径で、強力なネオジウム磁気回路と大型ヒートシンクを備え、強力な中低域のエネルギーにも完璧な対応をし、また繊細な高域表現と指向性の為にATC独自のアルミ精密ウェーブガイド備えています。ネットワークも余裕の耐圧を持つパーツで構成され、全帯域がフラットなインピーダンスになるようデザイン、アンプに優しい設計となっています。

小型スピーカーにとって強度面で重要なバッフルは、厚みあるサブバッフルマウントで重量ドライバーは本体キャビネットを支えています。この構成要素は広いバンド帯域、広いダイナミックレンジに貢献しています。C1Cの指向特性は水平方向に80°の広さを持ち、マルチチャンネルのインストールにとっても非常に有効で、正確なセンターチャンネルのモニタリングを実現しています。キャビネットはフロントバッフルをしっかりと支える高密度MDFで、本ツキ板のチェリー仕上げとなっています。

C1C 製品仕様

■形式：2ウェイ3スピーカー / 密閉型 / パッシブ

■使用ユニット：

トゥイーター・new25mm φソフトドーム (ATC精密ウェーブガイド)、ネオジウムマグネット
ミッド/ウーファー・125mm φ特殊コートポリエステル (マグネット重量3kg) 織コーンx2本

■再生周波数特性：-6dB・57Hz～20kHz

■クロスオーバー周波数：2.5kHz

■出力音圧レベル：84dB/W/m

■最大出力音圧レベル：108dB SPL(1m/連続入力)

■インピーダンス：8Ω

■入力スピーカー端子：ジャンパー付結線ポスト/4mm φプラグ (バイワイヤリング対応)

■外形寸法：450W×160H×268D mm

■重量：11kg

■仕上げ：標準仕上げチェリー

■価格：100,000円 (税別)



精密ウェーブガイド付トゥイーター



C1C ウーファー